



9月2・3日町民会館で、八匠小・中学校科学工夫展が一般公開されました。夏休み中に調査・研究された児童・生徒の作品が多数出品され、独創性豊かなものや、長期間にわたり調べ研究されたものが目立ちました。なお、工作の部で

研究記録の部では、社会問題となっている環境に関するレポートが増加していました。また、アイデアは広がっているが、まとめ方に工夫が欲しい作品も多くなりました。

工夫工作部門では、カラフルできれいな作品が多く出品されましたが、科学工夫の部は、出品数が少なく、もう少し力を入れてほしいところでした。

光町教育長賞に輝いた、東陽小1年生石川昂君の「どくつくたんけん」(写真)と、研究記録の部で光中2年生石井勇輝君の「赤砂の不思議」が、県の科学工夫展に出品されます。

夏休みの力作発表

八匠地区科学工夫展



▲おすまし君 (東陽小)



(南条小)
▲校長先生と仲良くゴールイン



▲一輪車が上手 (日吉小)



▲ヤッター！ 1着 (白浜小)

力のかぎり頑張った!! 運動会

若い力をいっぱいにつづけた光中の体育祭が9月10日に、台風の影響で1日順延となった秋晴れの9月18日、4地区の小学校で秋季大運動会が行われました。この日を心持ちにしていた子供たちは、お父さんやお母さんの声援をうけて、走ったり飛んだり大ハッスルの1日でした。

子どもの「SOS」キャッチ

(子ども人権オンブズマン決定)

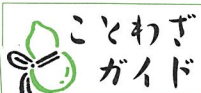
「いじめ」は、その方法や理由に関係なく、いじめられる子どもの人権を侵害するものです。しかも、この問題は、「いじめ」をする子どもばかりでなく、「いじめ」を見ているだけで何もしていない子どもを含む子どもたちすべての問題です。「いじめ」のほかにも、教師による体罰や、親による子どもの虐待など、子どもの人権問題が数多く生じています。

日本は、子どもの人権尊重への取組みを強めるために、昨年、「児童の権利に関する条約」に加入しました。これを受けて、法務省では、「子どもの人権専門委員(子ども人権オンブズマン)」を任命し、千葉県下では、8月から具体的な活動を始めました。子どもの人権専門委員は、子どもが発信する人権SOSをいち早くキャッチし、その解決に努めます。当管内の人権専門委員は秋葉庸氏です。

住所 芝山町宮崎一三
電話 七七一〇二三
問合せ 千葉地方法務局人権擁護課(☎043-2479444内線253)



▲全身の力をこめて (光中)



においまつたけあじ
匂い松茸、味しめじ

においがいいのは松茸、味がいいのはしめじと数あるきのこの中で特にすぐれている松茸としめじの特長を言う言葉。